

# ワークバランスを大切に 構造家・朝川剛

朝倉幸子◎TH-1

illustration: Taco◎Switch・エンタテインメント

## ■ 転身

京都大学工学部から大学院を修了、日建設計の構造設計グループに就職して24年間勤め上げた。そして今年、満を持して退社し東京電機大学未来科学部建築学科の准教授に就任したのが朝川剛さん。学園創立100周年を機に、2012年4月に開設した東京千住キャンパスが新ベースキャンプ。設計が建築家・楨文彦氏（楨総合計画事務所）で日建設計が構造、設備設計を担当したとあって、JR北千住駅から徒歩1分を見学者気分で行き先がウキウキ歩く。凜とした雰囲気の中、まだ荷ほどきが終わっていない朝川剛研究室があった。

太田区育ち、高校は私立武蔵高校でトライアスロンに興じるジャイアンツファン、体育会系の生徒だったとか。ガッシリした体型が物語っています。住まいは大学から徒歩通勤可能のご近所の駅にある。古巣の日建設計にも行きやすいから時間管理には最適。偶然とはいえ、体力維持もできる計算があるとは流石に数字に強い人である。

日建設計時代に担当した作品で印象にあるのが長野県の「日本無線先端技術センター」。建物の中央を貫くせん状の吹抜や、障壁のない立体的なワンルームなど構造的な建築物である。六本木にある「六本木グランドタワー」も住友関連の仕事をした中では思い出に残っているという。

受賞歴の最初は、1993年に第4回日本建築学会優秀修士論文賞です。研究者タイプであったのか、サラリーマン構造家としては立派に、第2回木の建築賞（2007年）、CFT構造賞（2010年）、社団法人鋼構造協会業績賞（2011年）など受賞が続いたのでした。著書も数々あり、近年では『構造形態と力学的感性』（共著、日本建築学会、2014年）で、筆力も発揮している。

朝川さんが、日建設計で得たものは何かと問うと、「大きな仕事に従事できたことが最高でしたが、それ以外に、優秀な人たちとの出会いとチーム力を感じながら仕事をしたこと、仲間と話ができたことだった」という。今もそのつながりを重んじる朝川さんなのです。

## ■これから教育者として

「これから僕のクライアントは学生。お金を出して教育を受けにきているからです。技術的にも見合った十分な知識を与える教育をしたい」と語る。その反面、突き放す方針も打ち出すつもりだ。学生それぞれが自分で『建築』を得て欲しい。バカにされない程度!には構造力学の基本を積み上げて、頭に叩き込めともいいたい。また、コミュニケーション能力も付けて欲しい。何も知らなくて、何もできなかった自分の社会人成り立ての頃を振り返ると、すべて自分でやって体得したという自信からくる言葉なのです。

学生たちが、社会人としてどんな仕事を選ぶのかも今から気になる。建築の本流から離れてしまう人が少なからずいる、と実感しているからだ。東京での理工系四大学（東京都市大学、芝浦工大、工学院大）の一つである東京電機大学で学んだことに誇りをもち、教育されたことを活かして職業を選んで欲しい。東京電機大学ではキャリアワークショップに力を入れているが、それは卒業後も視野に入れた教育のこと。教育者としては門を叩いたばかりであっても、社会人のキャリアを重ねた朝川さんだからこそ担える範囲は大きい。ゼネコンで設計している夫人は、休みの日も研究室に通いつめる夫を気持よくバックアップしている。心置きなく、転身した世界で羽ばたける朝川准教授。今までの概念に囚われずに、未来科学部の柱となって飛躍するはずの方でしょう。学生諸君にとって、よき兄貴分率いる朝川研究室の門出を、覇志堂とともに祝います。

